

# グループホーム友愛

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域のグランドゴルフ大会に参加し、良い成績を取る事を目標にホーム独自の練習を定期的に行っていく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		困難な事は事例をあげて、対策を職員間で検討している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		他地域の盆踊り大会参加・参加申入れ
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		環境美化運動に参加。近隣のゴミを回収し、イベント会場に持寄り、地域の方々との交流に役立てました。

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所のリビング及び共用部を活用して、地域の方々を対象とした、認知症対応型通所介護・介護予防通所介護を開設しました。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	思い込みや既定概念を除去し、客観的な意見に真摯に受け止め、参考になるものは積極的に取り入れていく。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの方針や活動状況の報告を行い、それに対しての意見や体験を伺っている。良い事例は取り入れて実践していきたい。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会を通じて、介護サービス相談員の受け入れを行い、徐々に利用者の皆様には、打解けています。最近では、運営推進会議に参加頂き、有意義な意見交換を行っています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者様1名。定期的な訪問を受け、都度、ご本人の身の事等打合せを行っています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以下の事に留意して介助にあたっている。利用者に対して、介助する側での立場で、物事を進めない。利用者の習性や好みを熟知し、職員間で情報を共有する。利用者に意味不明な言動や行動があっても、急いで止めようとせず、一緒になって行ってみたり、話を聞いてみたりする。		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項を難解な文章にせず、具体例をあげながら、分かり易く、ポイントを得ながら、十分な時間をかけて説明している。</p>		<p>入居契約前に、ご家族には、契約書と重要事項説明書を事前に持って帰って頂き、あらかじめ疑問点や不安な事を整理してもらっておく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先には、ポスター展示している。(苦情相談・ご意見箱・外部評価資料・介護相談員受入れ)</p>		<p>ご家族以外の来訪者に対しても、気づいた点を(良かったこと・好ましくない事等)、積極的に問い掛けるよう心がけている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に、文書にて報告 ・日常生活の様子(良い事や困難な事) ・お小遣い収支 ・健康状態(バイタル表・処方薬・持病の状態)</p>		<p>職員の移動があった場合(現在は無し)は、新人の挨拶文(性格や抱負等)を提出するようにしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談の窓口を内外に設置している。 ・ホーム内にご意見箱の設置。 ・区役所介護保険課や国保連合会 ・外部評価の家族アンケート</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月定例のカンファレンス活用して、問題点や、新しい提案等出し合い、良い事は積極的に実践している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の緊急を要する時や、状態悪化時にも対応出来るよう、柔軟で余裕ある勤務表を作成している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日勤帯・夜勤帯共に異動なく、利用者との関係は良好です。今後もより良い職場環境の良好さ保つよう努めていきます。</p>		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>男女年齢を問わず、資格を有するにこした事はないが、その人の介護に対する考え方や人間性を重視している。また社会参加や自己実現の意欲を持てるよう、有義者の研修会や講演会等にも参加している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>地域の市民福祉センターや公民館等で発行される情報誌や行事予定には目を配っている。高齢者に対する勉強会があれば都度参加している。(接し方・考え方・高齢者の心理等)</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内に於ける職員間での勉強会を開催したり、外部研修への参加や他施設の見学を行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームを見学に行き、良い所は積極的に取り入れ、困難事例や同じ悩みの解決策を検討しあっている。今年こそは同地区のホームとの相互訪問等実現したい。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>毎年恒例になっているもの。 ・各職員の誕生日に運営者及び管理者が個別に祝い、日頃の悩みを聞いて解決に努めている。 ・全員での食事会を開き、親睦を深めている。</p>		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者自身も介護職の一員であり、良く職員個々の勤務状態を把握している。定例のカンファレンスの場では、成功事例は皆で称賛し、困難事例は皆で解決するよう努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員の何気ない会話の中から読取ったり(職員は常に感度を高めて)、月2回の介護サービス相談員からの情報を得るようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	機会ある毎(家族の来訪時)に必ず事務所に立ち寄って頂く時間を設けている。遠方の方には定期的に電話を頂くようにしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	大抵の入居希望者は独居暮らしが長く、家族は一人で居ると危ないという認識しかなく、詳細な事までの把握がなされていないのが現実で、見極めがついた時点で、改めて相互の打合せを行っている。		まずは、ホームでの日常の暮らしが、どんなもので、いかに安全で安心であるかを実感して頂く為に、ご家族が出来るだけ長く、ご本人と一緒に居てもらうことをすすめている。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず、ご本人と家族が、ホームでの暮らしぶりを、短時間でも、その雰囲気を味わってもらい、その事を繰り返しながら馴染んで頂く。場合によっては、体験入居で試してみることを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの個性・意志を尊重して、趣味や特技が生かせるよう、出番や役割を分け合い、共に生活をしているという実感を持って頂く。		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームは家族と情報を共有し、一方的な介護にならないよう、家族に理解と協力を求めている。		利用者毎に1日の生活ぶりや、行事の時等の様子をビデオに収録し、ご家族や本人に見てもらい気づきのきっかけになるようにしていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームは、ご本人とご家族との仲介役となり、それぞれの思いを汲み取り、互いの潤滑油としての役割を担っている。		ご本人が、ご家族の元に帰省する機会を設ける。橋渡し役となる。(お正月・家族旅行・お墓参り)等一緒に過ごす時間を作るようお願いしていく。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会いたい時、馴染みの店に行きたい時、一緒に付き添い、また遠方の友には、お手紙を出す支援を行っている。行事やイベントがある時には、ご招待申しあげています。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ひとつの事をチームを組んで、ゲームをしたり、作業を行う機会を作り、良い関係になるよう努めています。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退室後も、連絡先を確認し、その後の暮らしぶりを互いに知らせあって、遊びに来て頂き、こちらからも訪問しています。手紙のやり取りも職員や入居者と多岐に渡っています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、ご本人の意志を尊重し、その意志が達成出来るよう努めている。その為には、職員間での情報を密にして情報を共有しています。特に言葉で表現出来ない人や、すぐ忘れてしまう人に対しては、顔の表情や行動パターンによって理解出来るよう、常に職員の感度を高めています。		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、これまでの情報を出来るだけ収集し(どんなささいな事でも)、介護計画に役立てています。また情報が少ない場合は、一定期間職員間で集中的な見守りを行い、カンファレンス等で検討しています。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活用式や行動パターンは、その時々で変化していく。都度その状態に応じ、経過を見ながら臨機応変に対応しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフが日常の見守りや援助するなかでの気付きや家族の希望、本人の意向を踏まえて、介護支援専門員を中心に、計画を立てています。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病状変化(良悪につけ)や、病院退院後再入居された場合は、ただちに介護計画の見直しを行い、(本人・家族との打合せを踏まえて)困難事例等は有識者(掛付医・介護サービス相談員・地域包括支援センター)の意見を参考にしている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な見直しを行うと同時に、日々の記録や気付きを元に介護計画を実践し、その結果を検討する機会を設けています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族に対して、食事の提供やホーム宿泊を勧めている。また個人的な用事の付き添い同行を行う。(買物・友人宅への訪問)		認知症対応型通所介護及び介護予防通所介護の開設許可(4月1日付)を得る。

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の所轄機関には、ホームの存在は認知され、ホームPRのための情報発信を行うと同時に、各機関からの援助・協力を受け易い環境作りを行っている。(消防署との合同訓練・警察署に対して徘徊者のリスト提出・地域自治会との交流)		地域の福祉協力員が児童と共に訪問され一時を過ごされました。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のGH・デイサービス・ケアホーム等見学を行う。困難事例やその対策、取り組み等情報交換することによって連携を強めている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の場で利用者の権利擁護やケアマネジメント等相談に乗っていただいている。		看取りについての段階的・且つ具体的取組み等勉強したく指導を願っています。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重し、意向ががない場合は新たにホームの掛かり付け医に過去の病歴等提出し、受診するよう支援しています。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門病院(新門司病院)と提携しており、いつでも相談出来る体制をとっています。定期的な診断や検査も行っています。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約により、専属の看護師2名が日常的な健康管理を行い、状態悪化時に於いては主治医との連絡・調整を行ってもらっている。		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ホームの情報提供書を提出し、利用者のこれまでの病歴や生活習慣を知って頂く。また定期的な見舞いと病院担当者(主治医や看護師)との面談を行い、状態把握に努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を作成し、全職員・家族・掛かり付け医とが、今後起こり得る事として受け止めている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ままだ事例が無いが、他のホームの困難事例や書物等入手し、出来る範囲の支援や見極め等について全職員で検討を行い、将来に備えています。		看取りに関する指針を作成して運営推進会議の場で検討して、ホーム以外での協力を得られるよう、出来るだけ具体的なマニュアルになるよう努めています。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が家庭復帰する際、違和感がないよう、日頃よりホームでの生活ぶりや対応等について、家族と情報交換を行っている。またホームでの生活の足跡が、ご家族や本人にも分かるようにしている。(写真帳・作品等)		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人の習慣・習性を理解し悪い習性であっても、注意するような声掛けは避けて、それとなくその場から離し、他の事に関心を移すよう努めている。また個人情報等の記録及び取り扱いについては全職員が秘密保持の原則を徹底している。		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分でうまく表現出来ない部分については、こちらから予想出来る事を何件か質問し、ご本人に選択してもらっている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の自主性を尊重し、ご自分でなさろうとする事には、手を貸さず見守りだけにしている。介助の必要な時は声掛けしながら手助けしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝食後や入浴後は、皆様の整容の時間をとっている。また、外出時には、ご本人の気に入った服装になるよう援助している。理容美容については特に希望がない場合は定期的に美容師に来て頂いている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた旬の材料を選び、皮むき・胡麻すり鉢すり・ぜんざいの団子作り・ふきやつわの皮取り・寿司具削り等手伝って頂き、出来上がり時には会話が弾んでいる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	要望がある時は、お店にご本人と同行し、自ら選んで頂いている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的な声掛けによるトイレ誘導は失禁の減少に効果あり、また見守りが必要な方には、本人も納得の上で、最後まで見届けている。深夜、頻尿や失禁・失便の多い方には、ベッドセンサーにより迅速な対応が出来ている。		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	皆様の要望や一人ひとりの健康状態に合わせて対応しています。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠が十分でない方(出来るだけ、眠剤は避けたい)は、状態をみながら、帰室を促し、昼寝や休息を取ってもらっている。夕食後は軽い運動や風船バレー等が心地良い疲労となり、安眠に役たっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事計画書を作成して、利用者の皆さんにも知って頂き、生活の目標やメリハリをつけていこう努めています。 個々の趣味や特技を生かした楽しみを持って頂く。 全員で楽しめるもの(買物・誕生会・季節にあった行事・ハイキング・ドライブ) 日常生活の中で、個々の力にあった役割を持って頂いて		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は大切であるという認識はあるようですが、所持すれば必ず紛失するので、ホームでお預かりしている。ご自身のお金を使って、欲しい物を買うという意欲は皆無。買物の楽しさを味わって頂くためにホーム共通の買物に参加願っています。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買物・家族への一時的な帰省、弁当持参のドライブ旅行・市民センターや公民館で外部の方との交流は日常のものとなっています。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方にあるお墓参りは、ご家族に協力を得ています。お正月等一時的な帰省が出来るよう、ご家族に呼び掛けを行っていますが、なかなか実現しません。		従来より一泊旅行をご家族と共に行きたいのですが極めて困難です。

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の力に応じて支援している。本人自らではない場合は、こちらから声掛けをし、どこに？誰に？等呼びかけたり、あらかじめ相手が分かっている場合はそのように導いていく。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	千客万来で歓迎しています。お客さんたちには、行事予定をお知らせし、また来訪して頂けるよう、ご本人と一緒にお願いしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以下の事に配慮しています。 利用者に対し、介助する側での立場で物事を進めない。 利用者の習性や好みを理解し職員間で情報を共有する。 利用者に意味不明な言動や行動があっても、止めようとせず一緒になって、行ってみたり話を聞いてみたりする。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則は鍵を掛けないよう心がけていますが、特定の利用者による不法侵入(他の利用者の居室)が相次ぎ、物が紛失したり、危険な物を口に入れたり(消しゴム・墨汁・キッチンや浴槽の洗剤)する事例があるため、他の利用者の希望があれば、本人も職員も内外から簡単に開錠出来る物を備えています。出来るだけ見守りで防ぎたい)		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在確認は常に全員で心掛けています。特にトイレに入った時(長時間に及ぶもの)は外から声掛けしたり、許可を得て、ドアを開けて様子を見るようにしています。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共用部や居室には、その人なりの部屋作りに心掛けていますが、個性や特性を考慮すると、やむを得ない部分も生じます。(ゴミ箱..汚染したパンツ・便の付いたチリ紙等何でも捨てる・花瓶..破壊または尿注入・洗面所の洗剤・石鹸を口に入れる・タンスには余計な物を入れない)		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホームで起こったものだけでなく、他施設での事例等、取り寄せて、一人ひとりに合わせた事故防止勉強会を開催しています。		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日勤帯・夜勤帯に分けてマニュアル作成し、万が一の事故対応に備え、その為の実施訓練を全職員で行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害に備えて、緊急連絡先・避難場所を指定している。また知名度も高まり、近隣との協力体制あり。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個性や持病による状態は日常生活で把握しているので、起こり得るリスクを予想しながら見守っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックは異変の発見に効果あり。異変に気付いた時点で、専属のナースに相談し、場合によっては主治医の診断を受けている。またその日に起こった事件は具体的に日誌に記録し、情報を共有している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の現在の病気や処方薬を一覧性のある表にまとめて管理事務室に掲示している。また薬は1つのケースに利用者毎に配分し、職員同士互いに声の掛け合いで投与管理。服薬後の効果も観察している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のチェック項目の1つに排便の確認がある。正常でない場合は、専属のナースや主治医の指導を受けながら対応している。また日々の運動は欠かさず、食事も緑黄色野菜を温野菜にして食して頂いている。		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは欠かさない。就寝する際、義歯ある人は、ポリデント洗浄し、ケースに収納する。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスと食べ易さをして料理。午前中・午後・入浴後の水分補給		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	定例となっているもの 年1回のいんふるえんざ予防接種 年1回の健康診断 主治医の定期健診 入浴時の皮膚点検		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	厨房・調理器具・食器の定期消毒。 特に調理器具は、毎日熱湯処理。 食材は、日々買い物し、在庫にしない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季折々の草花を植栽。 玄関までの寄り付きは、穏やかなスロープ。 玄関内と屋内フローリングは段差なし。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は車椅子でもゆったりと移動できるよう十分な空間づくりを行っている。また入居者と職員の手作りのカレンダーや行事の写真等が貼られ、穏やかな空間作りとなっている。調度や設備など家庭的なものを使用している。		

## グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、掘こたつ風のテーブルを設置し、お茶を飲みながら、新聞や雑誌を読めるよう環境設置している。またフローリングのデッドスペースには利用者同士の会話が楽しめるようテーブルセットを設置している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品などが持ち込まれて個性豊かな居室空間作りを行っている(仏壇やテレビ等)		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	暑すぎないよう、寒すぎないようエアコンによる温度調節をこまめにしている。(利用者の感覚を尊重)。また換気については、窓を開放することを嫌う利用者が多いので、不在時・定期的に空気の入れ替えを、行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手スリはホーム全体にくまなく設置している。必要な方は、この手スリを活用してどこでも移動可能である。和室にはフローリングの床より、1段高くなっており、椅子代わりになる。また左右の柱には手スリをつけて安全に昇り降りができる。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者個人に適した物品を各々取り揃えている。 (歌本・習字セット・手作りの五目版・三味線・マンガ本・カラオケセット・輪投げ・ボーリングセット)		意欲低下が著しく、基本的なこと(入浴・食事・排泄)等から介護計画を見直す必要あり。機能と意欲のある方は、個人的に満足が高められるようレベルアップを図っている。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の外は親しみのある看板を設置している。またその周囲には、四季折々の草花を植栽し、ベランダからも庭を一望出来、四季の移ろいを肌で感じとれる。		

## グループホーム友愛

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## グループホーム友愛

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・個別に利用者の1日の生活ぶりや、行事の時の記録をビデオ収録し、ご本人やご家族に見て頂き、要望や気づきのきっかけとしている。
- ・市民福祉センターに通う、地域高齢者との交流（グランドゴルフ・クリスマス会・餅つき大会）